

トップ

本部

支店

グループ会社

全社向けリンク集

[トップ](#) > [ニュース](#) > [2021年](#) > 白糸ハイランドウェイが10周年を迎えました！

ニュース

ニュース

白糸ハイランドウェイが10周年を迎えました！

2021年

2020年

2021年07月01日

株式会社ガイアートが、軽井沢の草軽交通株式会社から株式会社白糸ハイランドウェイの株式を取得し、道路事業運営を開始してから、7月1日で10周年を迎えました。

東日本大震災の年に株式取得、事業運営を開始して以降、笹子トンネル事故を皮切りに、社会インフラを取り巻く社会情勢は大きく変革し、白糸ハイランドウェイも社会の変化に合わせて、様々な取り組みを行ってきました。白糸ハイランドウェイの10年を、業務や環境の変化という面から振り返って、ご紹介したいと思います。

1. 料金徴収業務の変化

白糸ハイランドウェイの収入源は、唯一お客様からいただく料金収入のみです。各種業務のなかで、料金徴収業務が一番重要な業務であって、事業運営開始以来、いちばん変化があり、また今後も大きく変化していかなければならない分野です。

民間が運営する観光自動車道が全国に24路線あるなかで、ほとんどが旧態依然とした現金收受とチケットもぎりです。白糸ハイランドウェイもそうでしたが、出納業務の効率化と精度向上を図るため、2014年にデジタル化を導入しました。タブレット端末から車種別料金を入力し、セールスフォースにデータアップロードしてレシートを発券します。料金所での業務と、締めの業務が飛躍的に効率化されました。

今後は、利用者の利便性向上と消費活性化を期して、早ければ今年度中にキャッシュレスの導入を予定しています。さらに、人口減少・少子高齢化時代への対策として、AI-OCR等のICT技術を応用した自動化も見据えています。料金徴収業務は、アナ→デジ→キャッシュレス→オートメへと変化していきます。

昭和38年の開業当初から念願であった、終点側の料金徴収所(三笠料金所)が、この夏から開業します。これにより、利用者のさらなる安全性・利便性の向上と、維持管理業務の適正化を図ります。以前は路上で剥き出しで料金徴収をしていたものを、屋根付きクッションドラムに改良して、徴収員の安全と労働環境をなんとか確保していましたが、これらも一挙に改善します。



背後に浅間山を臨む峰の茶屋料金所



2011年当時の小瀬料金所：青空の下での料金徴収の様子



2014年迄のレイト兼チケット



2011年以降、屋根付きの料金所を設置



2014年導入のセルスフォースを使ったレイト発券



2021年7月27完成予定の三笠新料金所の完成予想図

2. イベントの変遷

白糸ハイランドウェイといえば、軽井沢町の夏の恒例イベントとしてすっかり定着した「白糸の滝プロジェクト」です。軽井沢町との共同開催で環境省万座自然保護官事務所の理解のもと、スタッフの企画とコンセプトの向上と、プロジェクトマップの技術的進化とともに、年々パワーアップし、アンケート満足度もアップしてきました。残念ながら、昨年からコロナ禍で開催できずにいますが、お客様からの問合せも多く、心待ちにしている方もいらっしゃいます。

イベントの運営は、熊谷組のみなさんをはじめ、ガイアートの社員の応援スタッフによって行っています。特にガイアートでは、全国の支店から応援者を募り、日常業務では体験できないような接客業務を学ぶことができ、一体感醸成に役立っています。

冬のイベントも氷柱からライトアップに変化し、雪景色に浮かぶ滝のライトアップと竹灯籠も好評いただいています。



夜の白糸の滝とその上部の樹木をスクリーンに見立てて、CG動画を投影





水蒸気をあげる冬の白糸の滝のライトアップ



会場設営・安全で円滑な観光客の誘導・現状復旧を支えたイベントスタッフ

3. 自然災害に学ぶ

事業運営開始以来、毎年のように大小の災害とその復旧作業を経験して、様々な対策を災害に学び施してきました。山岳道路の宿命から、大雨による斜面の崩落や、土砂の流入の災害が多く発生しましたが、特に2016年のゲリラ豪雨による路肩の崩落災害では、迅速な対応を行い早期の復旧を実現し、気象観測装置の設置や、それに伴う通行制限の見直し等の運営システムの改善に繋がりました。

全国に甚大な被害をもたらした2019年の台風19号でも、当該箇所は路肩が緩んだため、H鋼親杭で補強を行っています。この台風で、白糸の滝に向かう軽井沢町が管理する自然歩道も、倒木による土砂崩落で埋まっていますが、当社が無償で復旧作業にあたりました。倒木は未だに撤去されず、皮肉にも観光名物の一つになっています。



2016年ゲリラ豪雨による路肩の崩落



白糸の滝のすぐ下流の法面に残る倒木

4. CSRと地域振興

[ISO55001]

白糸ハイランドウェイの取得目的の一つである、インフラマネジメント技術の高度化とアカウンタビリティの向上、企業活動の透明化を図るため、2014年に発行した国際規格ISO55001アセットマネジメントシステムを、翌2015年3月には、道路アセット部門ではアジアで初めて、ガイアートと白糸ハイランドウェイとのペア認証で取得しました。組織目標「道路および道路施設を適切に管理する能力を有することを示し、その向上を図る。」を達成するため、日々継続的改善に努めています。





「認証」を持つ前山ガイアート社長
(右：当時)

【地域振興】

軽井沢地域企業としてのポジショニングや、ステークホルダーのニーズ掘り起こしのため、地域のステークホルダーとのワークショップを開催し、地域との対話、コミュニケーションに注力してきました。第1回目、事業開始時に実施したワークショップでは、維持管理のサービス水準の設定に参考になり、イベント企画のきっかけとなりました。第2回目では、町民の利用促進のための町民優待デーに繋がっています。今後も、地域に愛される白糸ハイランドウェイを目指して、地域とコミュニケーションしてまいります。



熊谷組グループ 軽井沢研修所『熊の杜』で開催された第2回
ワークショップの様子

【フィールド提供】

第2の組織目標「白糸ハイランドウェイを実証フィールドとして、新技術の改良と普及を図る。」の実施例として、社会的要求である高耐久で交通安全や凍結抑制機能のあるフル・ファンクション・ペーブ(FFP)の開発と、全国への普及に役立っています。融雪型道路用PRC版の開発、普及にも貢献しています。これ以外にも、関西大学・東京農大の研究、自転車レース、クラシックカーレースにもフィールド提供しています。

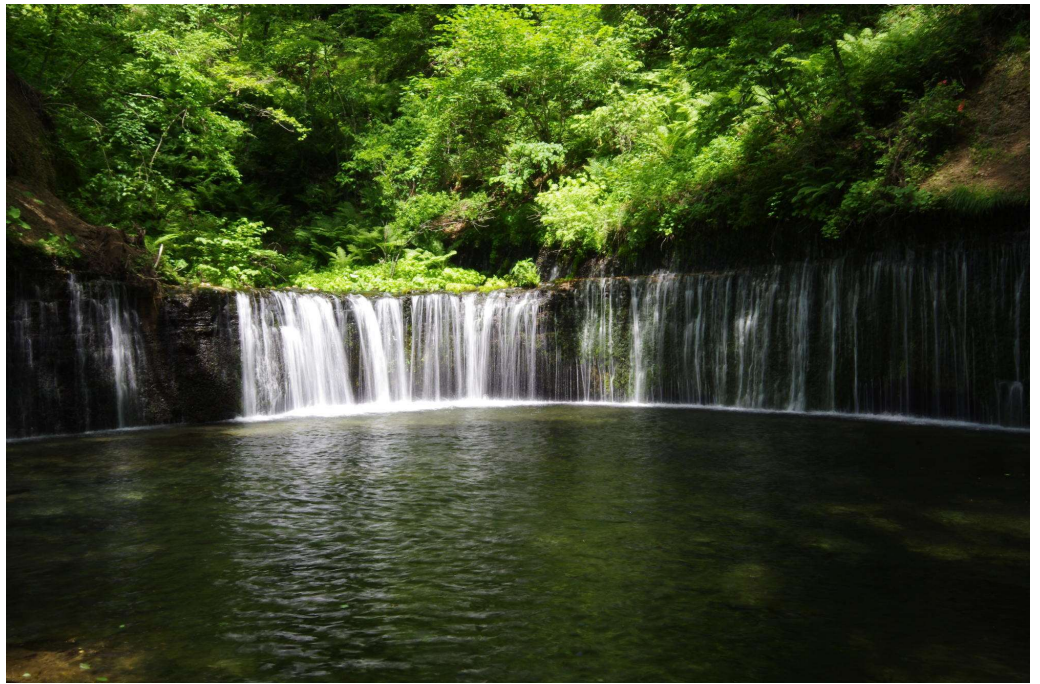


縦溝が特徴的なフル・ファンクション・ペーブ(FFP)の
路面

5. 変わらないもの

言わずもがなの名瀑「白糸の滝」。浅間山の伏流水が6年かけてこの地に一筋の糸として現れ、変わらぬ
変わらぬ水量、変わらぬ水温で、変わらず観光客を運んでくれます。





6. 終わりに

2019年には、軽井沢町の旧軽井沢エリアに「熊の杜、熊谷組グループ軽井沢研修所」がオープンし、軽井沢がより身近になりました。グループ社員の皆様も熊の杜を利用の際には、ぜひ白糸ハイランドウェイもご利用いただけると幸いです。

本件に関する問合せ先

(株)熊谷組 経営戦略室 経営企画部 グループ経営推進グループ

Copyright © 2021 KUMAGAI GUMI CO.,LTD All Rights Reserved.

